

れいわ6ねんど

令和6年度

あしやし がいこくじんしみん いけんこうかんかい ほうこくしょ

芦屋市 外国人市民意見交換会 報告書

2025年1月31日

目次

はじめに	p.3
1. 生活するために必要な情報について	p.4
2. 日本語学習について	p.6
3. 外国人への支援について	p.7
4. 地域とのつながり・交流について	p.8
5. 子育て・教育について	p.10
6. 防災・医療・救急について	p.12
7. 自分らしく生きやすい芦屋について	p.13
8. 市役所が外国人の状況や課題を知る方法について	p.14
まとめ・提案	p.15
委員の感想	p.16
芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要	p.20

はじめに

私たちは、芦屋市が外国人にとって暮らしやすいまちになるために、どうすればよいか、議論を行い、この報告書をまとめました。報告書には様々な観点からの意見がありますが、これは単なる批判ではありません。芦屋市が全ての人にとって暮らしやすいまちになってほしい、芦屋市の魅力を今以上に高めたい、そう思ってまとめたものです。

これらの意見を基に芦屋市の多文化共生施策が一層進み、全ての人が暮らしやすいまちになることを期待しています。また、私たちも芦屋市の一市民として共に多文化共生のまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

なお、以下は困りごとやその解決策として出された意見の例であり、芦屋市で暮らす外国人全てに共通するわけではありません。また、現時点でも既に芦屋市での暮らしに満足している人もいることを付け加えておきます。

1. 意見交換会の参加者

名前(敬称略)	出身
Álvaro Carrasco	チリ
Alyona Angelovska Khadzhayeva	ウクライナ
Carl Sellman	イギリス
呉 双	中国
平井 文野	台湾
Isabel Martinez	コロンビア
Jayson Pe Benito	フィリピン
金 園恵	韓国
Margarita Morales Flores	コスタリカ
Moses Paul	イギリス
Shaneik Dennis	ジャマイカ
Tom Lee	アメリカ
Ward Huffman	アメリカ

※ アルファベット順

2. 意見交換会の開催日程

日時	内容
2024年10月5日(土) 10時~12時	芦屋市での生活について
2024年11月2日(土) 10時~12時	芦屋市での生活の課題と解決策について
2025年1月11日(土)10時~12時	報告書の案について

1. 生活するために必要な情報について

【困りごと】

○生活するために必要な情報を手に入れられなかった。どこで入手できるか分からなくて困った。

- ・ 芦屋市で生活する上で必要な様々な情報がどこにあるか、どこにいけば手に入るのかが分からなかった。
- ・ 困っていて助けてほしいときに、どこで聞けばいいか分からなかった。
- ・ 芦屋市での生活に関して、市からどういったサポートを受けられるか、説明を受けたかったが、どうすればいいか分からなかった。
- ・ いろいろなサポートプログラムの存在を知らない。実際に窓口につなげるための工夫が必要ではないか。現状ではどこの窓口にいけば、どんなサポートを受けられるかが分からない。
- ・ 芦屋市のどこで日本語の勉強ができるか知りたかった。
- ・ ゴミ処理の仕方が分からなかった。
- ・ 起業をしたい場合にどうすればいいか、資金調達や必要な税金の手続き、守らないといけない法律などの情報もどうやったら得られるか分からない。

○生活に必要な情報の言葉・表現が難しく困った。コミュニケーションがうまくいなくて困った。

- ・ 子育て支援に関する情報のことが難しくて分からなかった。
- ・ 市役所でいろいろと聞きたいことがあったが、時々、職員とのコミュニケーションがうまくいなくて困る。

○生活する上で何を助けてもらえるのか分からない。

- ・ そもそも芦屋市が外国人に対してどういったサポートをしているか分からない。
- ・ 市からの手紙は見る。内容が分からなかったらスマートフォンの翻訳機能を使ったり、学校の先生に聞くこともできる。しかし、広報紙は見ない。必要な情報が載っているかどうか分からない。

【必要だと思うこと、希望すること】

○多言語での案内や情報提供があるといい。

- ・ 多言語での説明資料や表示がほしい。特に市役所からの重要な手紙(年金等)は、多言語での資料が必要。
- ・ ホームページなどは見た目の可愛さなどよりも、情報が整理されていて入手しやすくなっているかどうか、大事ではないか。シンプルに生活に必要な情報・便利な情報が集約されているページを作ることが必要。

○生活に必要な情報をまとめて提供してもらえるといい。

- ・ 外国人住民の方が市役所に住所変更の手続きに来られる際には、芦屋市で生活する際に役に立つ情報をまとめた書類・冊子等を渡してほしい。
- ・ 芦屋市での生活をスタートするときに必要な情報を教えてほしい。近所の保育園の空き枠、スーパーなどの商業施設、交通ルール、公衆トイレの場所など。

○外国人に情報を届けるために SNS 等を活用するといい。

- ・ 外国人に情報を届けるための SNS（Line、Instagram など）グループを作った方がいいのではないか。
- ・ 市役所に通訳の配置や通訳アプリの導入をした方がいいのではないか。

○外国人向けの生活オリエンテーションを実施し、その人が必要とする情報を伝えるのがいい。

- ・ 市からのお知らせに関する説明や芦屋市で生活するためのオリエンテーションの機会があればいいのではないか。お知らせについては、紙で配るだけでなく、説明を聞ける機会があるといい。また、人によって必要とする制度は違うので、転入者に直接紹介してくれる取組があるといい。

○市役所の職員が外国人とのコミュニケーションに慣れることが必要。

- ・ 芦屋市に転入してきた人に対する市役所職員の対応力を向上すべき。市役所職員の外国人とのコミュニケーションがよりスムーズになるようにもっと経験と慣れが必要ではないか。

○行政以外にも外国人への情報提供を手伝ってくれる市民が増えるといい。

- ・ 困った時にいろいろと助けてくれるサポーターを配置するとよい。困っている人を見かけたら声をかけてくれる人がいると助かる。

2. 日本語学習について

【困りごと】

○日本語ができなくて困る。

- ・ 日本語ができないと生活に必要な情報をなかなか知ることができなくて困る。
- ・ 芦屋市には日本語教室があるが、実際には日本語があまりできない人もたくさんいる。

○日本語教室の内容や条件(開催日時や実施体制)が外国人の状況やニーズと合わない。

- ・ 成人は仕事などで日本語学習にたくさん時間をかけることができない。限られた時間で学ばないといけな
い。ボランティアの活動が悪いわけではないが、会話・交流中心の活動では、十分に日本語の上達が図れな
いことがある。
- ・ 日本語教室の開催時間と合わない、アクセスができない人もいる。
- ・ 日本語教室の存在は知っているが、なかなか勉強したくてもできない人も多い。

【必要だと思うこと、希望すること】

○日本語について体系的に学ぶことができる教室がほしい。

- ・ 基礎日本語クラスがほしい。
- ・ 日本語の文法や構造を学び、それを試験して確認するような教育プログラムが必要だ。
- ・ 日本語を体系的に勉強したい。

○日本語教室の内容について

- ・ 高齢者かつ日本語初心者向けの日本語教室を開催してほしい。
- ・ テーマを絞り込んで集中的に学ぶ日本語教室があってもいいのではないかな。
- ・ 基礎漢字クラスや日本語でのおしゃべりを楽しむことができるチャットカフェがほしい。

(※チャットカフェ:会話を中心に日本語で楽しく交流する場)

○日本語教育の専門家による日本語教室が必要。

- ・ 日本語教育の資格を持った専門家が指導するクラスを設置するべき。
- ・ 現役の日本語教師によるクラスが必要。
- ・ 日本語教室は教える経験の少ないボランティアではなく、経験豊かな日本語の先生が教えるべきだ。

○多くの人が参加しやすいように教室の実施形態や開催場所について、バリエーションがほしい。

- ・ オンラインでの言語学習があれば、より多くの人が参加できるようになるのではないかな。
- ・ 日本語教師が出張して日本語教室ができないかな。

なお、このようなニーズがたくさん寄せられた一方で、日本語教室で地域の人と出会うことができる。地域とつながる重要な場になっているという指摘もあった。地域の日本語教室が日本語能力の伸長だけでなく、外国人が地域社会から孤立を防ぐ役割も果たしていると言える。

3. 外国人への支援について

【困りごと】

○ 自分の経験やスキルを磨く機会、活かす機会がない。

- ・ 自分の知識やスキルを磨く機会がない。
- ・ 自分の持っているスキルなどを活かす機会がない。地域の活動には参加しにくい。

【必要だと思うこと、希望すること】

○ 外国人も地域での活動に参加しやすいようにサポートがほしい。

- ・ 外国人ももっと地域での活動に参加した方がいい。
- ・ 外国人にボランティア活動の機会を提供することも大事ではないかな。子育て、語学学習、趣味など、多様な分野で力を発揮できる人がいる。
- ・ 外国人の力を借りることも必要。例えば、外国語については外国人が市役所職員に教えることもできる。外国人が常に支援を受ける側なのではなく、支援をする側にも回れるし、そういった機会を作ることが大事ではないかな。

- ・ 外国人が地域など、様々な活動に参加するのはいいことだが、参加しやすくなるようサポートしてほしい。例えば、自治会など地域組織の側から外国人を誘う、言葉だけでなく活動内容や趣旨、背景なども含めて伝える通訳を用意する、そもそも外国人が地域の活動について知る機会を設ける、民生・児童委員や社会福祉協議会の協力を得るなど。

○ 法律や学校のことなど教えてほしい。

- ・ 法律関係のこと、学校での困りごとについて、地域で長く暮らしている人たちにいろいろと教えてほしい。

○ 外国人も参加しやすい多様な学びの機会がほしい。

- ・ 日本語以外に資格の勉強などをしたい。外国人の生涯学習のためのプログラムがあったらよい。
- ・ 芦屋での生活や日本の文化について学んだり、体験したりできる講座があると良い。学ぶ機会がほしい。

○ 今後、芦屋市で多文化共生がどのように進んでいくか、方向性や見通しを示してほしい。

- ・ 今後、芦屋市の多文化共生がどのように進んでいくのか知りたい。どうやって進んでいくのか見えることで、自分たちの生活や気の持ちようが変わる。

4. 地域とのつながり、交流について

【困りごと】

○ 地域の人とのつながりが少ない。多様な人と出会い、つながることができない。

- ・ 地域の人と交流するチャンスが少ない。友だちを作ることができない。
- ・ 近所の人と交流はなく、日本人の友だちはいない。同じ学校の人しか友だちがいない。
- ・ 日本語教室のボランティアは若い人が少ない。自分も子育てをしているが、子育てをしている人と、会う機会がなく、話をすることができない。
- ・ どう振る舞ったらよいかわからないこともあり、日本人の集まりには参加しにくいと感じることが多い。

【必要だと思うこと、希望すること】

○ 地域の人との接点、交流の機会がもっとほしい。そういった集まりを行政が支えてほしい。

- ・ いろいろな人とのつながりの中で情報をもらうこともできる。日本人と話をする機会も大事。
- ・ 子ども、若者について、地域の人たちと共に参加し、活動するような機会がもっと増えるといい。その中で互いに学び合うことができるのではないかな。
- ・ 地域の人たちが集まり、交流する機会を行政主導で作っていくことはできないかな。行政が主導で声をかけることで安心して足を運ぶことができる人がいるのではないかな。
- ・ フェスティバルなどのイベントを通して地域の人たちとつながることができるといい。
- ・ 地域の人との交流の中でどう振る舞ったらよいか、どういう振る舞いは周りからどう見られるか、知る機会がほしい。
- ・ LINEなどのプラットフォームを活用してコミュニケーションを図り、市役所や外国人とつながるといいのではないかな。LINEなどで多くの機関・団体や市民が参加するコミュニティができると、地域密着型、ローカルな暮らしの情報を得ることができる。

○ 地域の人との交流をさらに深めて、人間関係が作れるような取組がほしい。

- ・ 人間関係をどう作っていくか、地域で住民として暮らす、参加することを支えるような取組が必要。
- ・ 相手の方が自分のルーツに興味を持っていることが分かった時は、いろいろと教えてあげたい。そのとき、日本語の壁を超えることができれば、もっと自分たちの得意なことを発揮して、役に立つことができると考えている。外国人が地域の人たちにいろいろと教えたり、貢献したりするためにも日本語の壁を超えられるようにしたい。
- ・ 芦屋で暮らす外国人が講師となって自分たちの文化などを紹介し、地域で暮らす日本人が学ぶ機会を作れないかな。外国人と地域の人たちの接点づくり、外国人の地域貢献になる。
- ・ 地域の人と交流したり、地域の活動に参加しやすいように、やり方やルールで分からないところは教えてほしい、逆に自分たちの思っていることや意見、アイデアも聞いてもらいたい。

○ 地域レベルで助けになる人の掘り起こしが必要ではないかな。

- ・ 外国語ができるなど、いざというときに助けてもらえる人の掘り起こしと、その情報の整理を進めていくことが大事ではないかな。市役所だけが通訳の確保・配置を行うのではなく、自治会や社会福祉協議会などの組織でも助けになる人の掘り起こしと整理を進めても良いのではないかな。

5. 子育て・教育について

【困りごと】

○ 日本での子育ては分からないことも多く、子どもも保護者も孤立してしまいやすい。

- ・ 外国で子育てをするのはとても大変だ。
- ・ 芦屋市で子育てをしていて、親としては学校が少ないと感じた。選択肢が少ない。
- ・ 学校に関する情報も少なく困った。
- ・ 子どもが学校でなかなか友達ができない。友達がいない。
- ・ 保護者も日本語ができない場合は、学校の先生とのコミュニケーションに苦労することが多い。
- ・ 子どもの学費が高い。

【必要だと思うこと、希望すること】

○ 外国ルーツの子どもたちが孤立せずに、学校になじめるような取組がほしい。

- ・ 教育、子育てについて、もっとサポートがほしい。
- ・ 外国ルーツの子ども・若者が元気に過ごせるような取組がほしい。例えば、自分のルーツについて学ぶことのできる機会を設けられないか。
- ・ また、外国ルーツの子どもたち同士が安心して集い、つながることのできる居場所が作れないか。
- ・ さらに、外国ルーツの子どもたちが学校や社会の中で安心して過ごせるように、周囲の多様性に対する理解は重要。外国ルーツの子どもたちが自分のクラスや学校で本名やルーツを隠すことなく、自己肯定感を持って生活できるように、周りの子どもたちが多文化について学び、多様性を大事にする意識・態度を身に付ける必要があるのではないかな。そのことが友達を作るためのサポートになるのではないかな。
- ・ 外国ルーツの子どもたちだけでなく、周りの子どもたちにとっても多様性を大事にする意識・態度を身に付けることはグローバルな社会を生き抜く力になるのではないかな。
- ・ 外国ルーツの子どもたちが学校生活にうまく溶け込むためのサポートがもっと必要。外国ルーツの子どもたちが学校について知る機会を設けることが大事。
- ・ 孤立を防ぐためにも、学校や教員の多様性に対する理解や多様性を大事にする態度は重要。

○ 外国人の保護者が孤立せず、安心して子育てに臨めるような取組がほしい。

- ・ 外国人の保護者は日本の学校のことをよく知らないことが多いので、外国人保護者が学校を訪問し、見学し

たりして、学校について知る機会が増えたらいいと思う。学校行事に参加したり、学校行事の見学がしやすくなるといい。

- ・ 学校の行事に参加する・見学するだけでなく、周りの保護者や教師とつながりができるような交流会が実施されることを期待する。
- ・ 学校や子ども園にグループ活動があり、そこに外国人の保護者も参加することができれば、もっと多くの人とつながり、外国人の保護者も外国ルーツの子どもももっと元気に過ごせるのではないかな。
- ・ 学校と家庭とでもっと密なつながりが必要ではないか。家庭訪問など、学校と家庭がつながるような取組が必要。

○ 学校、教員が外国ルーツの子どもたちや保護者の状況、想いを学ぶことが必要。

- ・ 外国人の状況や課題、想いについて教職員が学ぶことが必要。教職員向けの研修でニューカマーもオールドカマーも含めて、地域で暮らす外国人の状況や課題、想いは多様であること、そういった多様性を大事にすることが子どもたち同士の豊かな出会いや学びにつながることを知ってほしいし、大事にしてほしい。
- ・ 外国ルーツの子ども、保護者に対する理解を深めるため、学校の先生が家庭訪問など、外国ルーツの子どもたちの家庭にアプローチすることも大事ではないか。学校や教員に対する信頼関係にもつながる。

○ 教育に関する経済的な負担を軽減する取組がほしい。

- ・ 大学など高等教育機関に進学する際の補助金。
- ・ 制服、バッグ、本などの学校生活を送る上で必要なものの交換、再利用を奨励する。
- ・ 進学に関するローンの案内が必要。

○ 学校だけでなく、地域も一体となった子育ての取組がほしい。

- ・ 公民館や公園などの場所を利用して、日本人と外国人の子どもたちがお互いを知り、自由に交流できるイベントがあればいいのではないかな。
- ・ 地域情報がなかなか手に入らない家庭も多い。地域から孤立せずに、つながりができることを望んでいる。

○ 外国ルーツの子どもたちが意見を言える／外国ルーツの子どもたちの意見を聞く機会が必要。

- ・ 「外国ルーツの子どもたちにはきっとこういう支援やプログラムが必要」ということを周りが決めるのではなく、何が必要と感じているか、意見を言える／聞く機会を設け、支援やプログラムを提供する側の思い込みで進めないこと。

6. 防災・医療・救急について

【困りごと】

○ 防災や医療などについて、多言語での情報提供がない。

- ・ 防災について、多言語での説明が足りていないので分からない。資料は多言語で入手できるようにしてほしい。防災無線も日本語だけなので理解できない。多言語で対応してほしい。
- ・ 芦屋市には保健センターなどで実施する予防接種・健診や病院について、多言語で十分な情報や説明がない。

○ 災害の備えて、何をすればよいかわからない。

- ・ 自分は地震や台風のときのための準備をしていないので不安だ。
- ・ 防災についての講座は興味があるが、学校やバイトで忙しいため行く時間がない。

【必要だと思うこと、希望すること】

○ 多言語での情報提供がほしい。

- ・ 防災無線など、災害時の情報を多言語で提供する必要があるのではないか。例えば英語、日本語、韓国語、中国語など。

○ 医療機関へのかかり方や健康について学ぶ機会がほしい。

- ・ 日本での医療機関へのかかり方に関する説明が必要ではないか。調子が悪いとき、どこに行けばいいのか、どういったクリニックに行けばよいかなど。
- ・ 健康については個々人の心がけや努力も大事。さらに芦屋市が実施するセミナーにも外国人が積極的に参加した方がよい。

7. 自分らしく生きやすい芦屋について

【困りごと】

○ 外国人に対する差別や排除がある。受け入れられていないと感じることがある。

- ・ 電車の中で自分の周りだけ誰も座ってこないなど、避けられていると感じることがある。
- ・ 日本の社会はなかなか変わらない。外国人に対してだけでなく、年齢や宗教、性的指向など、多様な差別が存在している。また、表立って攻撃をされるわけでもなく、避けられる、排除されると感じることもある。
- ・ 日本の社会が変わり、外国人を受け入れていくのは不可能ではないかと感じることがある。

○ 外国人同士のつながりが作りにくい。

- ・ 外国人同士のつながりやコミュニティがない。
- ・ すでに外国人がたくさん暮らしているということ、いろいろな想いを持って暮らしているということがあまり知られていない。

【必要だと思うこと、希望すること】

○ 日本人と外国人が交流し、壁をなくす取組が必要。

- ・ 外国人と日本人の交流を促進する多文化イベントを奨励する必要があるのではないか。
- ・ 自分の文化を紹介する機会がほしい。また、逆に日本の文化を知る機会がほしい。
- ・ 文化の壁を打ち破るイベントが必要ではないか。日本人／外国人の壁を打ち破るようなイベントが必要。一緒に何か体験する、それぞれの出身の食べ物を食べるなど。
- ・ 外国人を含めた地域住民向けの言語学習交流会やグループが必要ではないか。
- ・ 日本での生活や文化やマナー、考え方などからテーマを決め、それに関する経験や意見やアイデアについて話をし、交流する機会があればよいのではないか。教えてもらうだけでなく、話し合う・対話する機会が大事ではないか。

○ 地域社会の側が外国人を積極的に受け入れようとする取組がほしい。

- ・ 外国人住民に働きかけ、アウトリーチに取り組む「自治会」を期待する。自治会に所属する外国人が周りの外国人を誘うこともできる。きっかけづくりを自治会や地域の団体からしてもらえるとうれしい。

○ 外国人に対する差別や排除のない芦屋・社会になることが必要。

- ・ 外国人に対する差別がない社会になってほしい。

- ・ 自分の国籍、ルーツ、母語、民族などが大事にできるように、アイデンティティを大事にしていけるような芦屋になってほしい。子や孫、4世、5世になっても安心してルーツを大事にできる社会になってほしい。
- ・ 若い人たちに、過去の戦争や歴史について、しっかりと伝えることが大事ではないか。過去の戦争や歴史との向き合い方によって、日本社会が外国人や外国の文化をどれだけ柔軟に受け入れることができるようになるかが変わるのではないか。日本社会はもっと柔軟になれると思う。

8. 市役所が外国人の状況や課題を知る方法について

【困りごと】

- 芦屋市では外国人の状況や課題をしっかりと把握できていない。
 - ・ 芦屋市としても外国人の状況や課題について把握できていない部分があり、どういった対応が必要か判断しかねる。
 - ・ 外国人の中には相談窓口になかなかたどり着かない人がいる。また、相談窓口に行って相談をするのは、心理的にハードルが高いと感じる人もいる。困りごとを抱えていても、相談窓口にたどり着けるとは限らず、結果として市役所が外国人の困りごとを把握できなことに繋がっている。

【必要だと思うこと、希望すること】

- 外国人が足を運びやすいように市役所の相談窓口の多言語・多文化対応を充実させてほしい。
 - ・ 外国人市民が市役所にもっと足を運んでくれるように市役所にサポーターや中国語など外国語の相談員がほしい。
- 外国人の声を拾うための企画を実施したらいいのではないか。
 - ・ フェスティバルやピクニック、バーベキューなど楽しい機会、人が集まるような機会を作り、そこで参加した人と交流しながら困りごと、ニーズを拾い、次につなげていくことが大事ではないか。人が集まる機会を声が集まる機会と捉えることが大事。
 - ・ 市役所が外国人の状況をもっと知るためには、外国人向けの交流活動をさらに推進することが大事ではないか。
 - ・ 市役所単独で実施するのではなく、市民団体の助けなども得ながら、実施するといいいのではないか。
- 外国人の声を拾うために、直接アプローチすることが必要ではないか。

- ・ 必要があれば、外国人に電話をしたり、直接話をしたり、家庭訪問などアプローチをすることが大事。
- ・ 定期的なアンケートの実施がよいのではないかな。
- ・ より広範に声を拾うためには、チラシ配布や学校での周知、市役所を訪れた外国人にアンケートをするなど、多様な媒体、ルートで伝えていくこと、聞くことが必要。

○ 外国人が互いの意見や経験を交換し合い、芦屋市の多文化共生について考える場を継続して持つてほしい。

- ・ 意見交換会で、より多くの懸念事項や解決策のアイデアを聞くことができて嬉しかったです。新たに感じた懸念は、外国人住民同士であっても、お互いの希望や要望を理解し合うことが難しいということだ。今後とも懇親会を開催し、相互理解と親睦を深めていきたいと考えている。

まとめ・提案

私たちが芦屋市で暮らす中で、困っていることとそれへの対応、希望の中には芦屋市ですぐに取り組めるものもあれば、日本社会全体に関わるものもあります。ここでは、当面の対応として芦屋市に希望するものをまとめて記します。

1 情報発信について

- (1) 既にあるサービスにたどりつけない人もいる。伝わる情報発信が必要。転入時など市役所に来るときに確実に伝える。そのときに芦屋での暮らし、生活に必要な情報などを集約したHPに誘導する。
- (2) 芦屋市での生活をスタートするときに必要な情報を伝えるオリエンテーションを実施する。(多言語相談窓口、日本語教室、子育て・教育支援に関すること、保育園、ごみの捨て方、病院スーパーなどの商業施設、交通ルール、公衆トイレの場所など。)
- (3) 市役所からの重要な手紙(年金など)については、多言語化する。

2 日本語学習について

- (1) 専門家が指導する体系的なクラスを設置する。
- (2) テーマをしぼって集中的に日本語を教える。

3 外国人への支援について

- (1) 外国人がもっと地域での活動に参加する。
- (2) 外国人も支援する側になる。

4 地域とのつながり、交流について

- (1) 地域の外国人と日本人の交流を促進する多文化イベントを実施する。自分の文化を紹介し、日本の文化を知りたい。
- (2) 定期的なアンケートを実施する。
- (3) 意見交換会を今後も定期的に行う。
- (4) 子ども、若者、子育て世代が出会えるイベントを外国人も参加しやすいものにする。

5 子育て・教育について

- (1) 外国ルーツの子どもたちが出会い、友達を作る場が必要。
- (2) 保護者が日本の学校のことを知るためのプログラムを実施する。

上記以外のものについても、行政だけでなく、市民や事業者、兵庫県や国と連携しながら、解決に向けた歩みを続けていくことを期待します。

また、私たちも芦屋市民として、ともに取り組んでいきたいと思っています。芦屋市に暮らす外国人が自分のルーツを大切にして、安心・安全に暮らせるように、誰一人取り残されないまちになるように、ともに進んでいきましょう。

参加者の感想

金園恵さん

市政ニュースを見て、どんな会か不安に思いながら勇気を出して参加しました。英語を話す方がほとんどで、場違いな会議に来てしまったと一瞬で緊張。

国際文化推進課の開口一番「世界の中から芦屋を選んで下さってありがとうございます。」に感動しました。オールドカマーが私だけで、他の参加者との生活上困っている事とはギャップがありましたが。みなさんの困りごとは、祖父母の声に聞こえました。旅行とは異なり、生活をする上で言葉の壁は厚いのだな。私の話は、これから芦屋に住む外国人のみなさんのお子さんやお孫さんが、多くの在日コリアンのように、ルーツを隠したりなまえを隠したりして生活しないような芦屋になる事を期待します。会議中、私が咳払いしたら、横の方が「大丈夫？」とすぐ声をかけて下さいました。嬉しかったです。

ファシリテーターのまとめ方も本当にわかりやすく、読みやすい日本語での板書など、きめ細やかな優しさと確かな知識が私たちが意見を率直に出せる助けになり感謝しています。

市職員が英語を話せて頼もしいなと思いました。娘の会社も公用語が英語で、管理職になると書類も英語で作成と聞きました。英語のできない私には、別世界と思っていました。

最後の会議で、参加者の英語の単語が一回目より、単語が聞き取れて、意味は全文はととてもとてもわかりませんが、自分で凄く嬉しかったです。高校の授業以外英語は学んでいませんが記憶に残ってる事が嬉しく、初めて英語ちょっと勉強してみたいなと帰り道に思いました。私が英語が話せたら、誰かの役に立つかも？

意見交換会も素晴らしい内容でしたが、この歳の私に、英語勉強してみたくさせた、この3回の会議の深い効果が素晴らしい。歴史の歪で、日本に生まれたけれど、住む街に選んだ芦屋に大きな希望が見えた会議でした。みなさまありがとうございました。

+++++

トム・リーさん

まず、私たちの心配事やニーズを知るために外国人で構成されたフォーカス グループをつくり、外国人にとっての芦屋での生活を改善する方法を学ぶために多大な努力を払ってくれた芦屋市のサービスに感謝したいと思います。私は個人的に、多くの日本の都市が外国人にこの種のサービスを提供していないため、芦屋の国際サービスはとても優れていて、アクセスしやすいと考えています。芦屋市長が私たちの懸念を直接聞いてくださったことに感銘を受けました。これは市側の大きな関心と配慮を示しています。また、豊中市と西宮市のサービスに関する洞察を共有してくれた多くの方々にも感謝します。芦屋市を住みやすく、関わりやすいコミュニティにするために努力する中で、このように市に貢献できることを光栄に思い、感謝しています。

日本人はとても礼儀正しく、控えめで、丁寧で、思いやりがあるので、日本人に近づくのは難しいことが多いと感じています。

多くの外国人は日本人と関わりを持つことに不安を感じていますが、人として、私たちは皆、率先して人々に近づき、話しかけ、グループに参加する必要があります。

私は、コミュニティに溶け込むのに何の問題もありませんでした。新しい人に会うことに抵抗がなく、楽しんでい

るからです…私の日本語スキルが初歩的であっても、私が他の人とコミュニケーションをとると、相手の方も会話を楽しんでいるように感じています。

外国人で日本人の配偶者がいる方は多いので、新しい人に会うことはそれほど難しくないし、通訳してくれることも多いでしょう。(私の場合、妻が最初は手伝ってくれましたが、すぐに私は一人でも大丈夫だと気づきました！)。多くの人が思っているほど難しいことはありません。

改めて、みなさんに貢献する機会を与えてくださった芦屋市の皆様に感謝申し上げます。

+++++

マルガリータ・モラレスさん

このプロジェクト(残念ながら私は一度しか参加できませんでした)についての私のコメントは、第一に、市内に住む外国人としての私たちの意見は表現するのが難しく、対話を促進し、誰も取り残さず、表現していくため、このような機会を持つことは非常に重要であり、ありがたく思います。私たちはコミュニティとしてまだ少し弱くて小さいと思いますが、他の外国人の顔を見て、一緒に活動に参加し、芦屋の統計や状況を知ること、私たちと市のつながりが確実に強まると感じています。

私たちのためのスペースがあることを認識し、お互いの意見を共有することは、外国人住民同士がより近しく感じる第一歩です。中期的には、私たちのコミュニティが「見える化」し、活発になることを望みます。

そのためにはコミュニケーションが鍵となるので、私たち全員が、外国人だけでなく日本人の芦屋市民の新しい世代とつながる方法(そしてそれを常にアップデートしていく方法)を探すべきだと思います。これによってみんなと一緒にコミュニティを作ることができます。一緒に活動すること、楽しい時間を共有すること、教育、明確なコミュニケーションが、私たちのつながりを強化する柱だと考えます。ありがとうございました。

+++++

アルバロ・カラスコさん

芦屋市が今回行った、調査や会議を通じて話し合い、課題を特定し、外国人が芦屋に慣れ、一つにまとまるよう促すにはどのようにすべきか意見を集めるという取り組みは素晴らしいと思います。

会議はみんなが相手に敬意を払い、と自由に意見が言える雰囲気の中で行われ、多文化共生に内在する多くの課題について、自由な意見交換と有意義な話し合いができました。

日本への移民は今後も増え続けると思われます。したがって、今回のような取り組みは、新たな問題に対処し、機会を模索し、さまざまな理由で聞き入れられにくい声を届けるために、今後も不可欠なものとなると思います。

この会に参加できてよかったです。ありがとうございました。

+++++

ワード・ハフマンさん

芦屋市国際文化推進課が、外国人住民の生活状況を理解しようとしているということを最初に聞いた時、感銘を受け、感動しました。この議論に参加する機会をいただけたことに感謝します。今回のディスカッションはよく構成され、進行もスムーズでした。ファシリテートがしっかりしていたことで、議論がうまくいったと思います。

さまざまな外国人住民の心配事を共有し、みんなで考えるプロセス自体が楽しかったです。また、個人的に、他の国籍、年齢、性別などの住民の問題に対する理解を深めることができました。お互いの心配事を理解した後、解

決策を探し、それを共有しました。

今回の意見交換会の報告書が、みなさんが今後考える材料となり、さらなる議論を生み、芦屋の外国人住民と日本人住民の生活体験の向上に役立つことを願っています。芦屋は本当に住みやすく、素晴らしい場所だと思います。

+++++

ジェイソン・ペ・ベニート さん

このグループディスカッションのメンバーに選ばれ、参加できたことに心から感謝しています。本当に多くのことを学び、市役所にとって私の意見が重要だと感じました。このコミュニティの一員になれて幸せです。

この有意義なグループディスカッションを主催してくださった皆さんに感謝します。今後、私のサポートや援助が必要でしたら、遠慮なくお知らせください。

■ 芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要

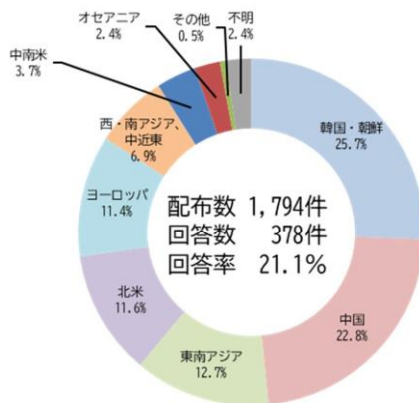
【目的】

芦屋市在住の外国人市民の『日本語能力』『生活』『防災』について、現在の意識・状況を調査し、今後の芦屋市外国人施策について分析、検討しました。

【回答状況】

○国籍・地域別

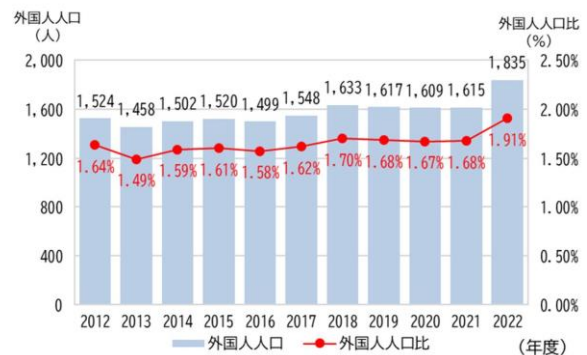
< 国籍・地域別 回答状況 >



< 調査概要 >

調査期間	令和6年8月16日（金）～8月30日（金）
調査対象者	市内在住外国人のうち、18歳以上の男女（令和6年8月1日時点で1,794人）
調査方法	・LoGo フォーム利用によるインターネット回答（日本語・英語・中国語・ベトナム語・スペイン語・ポルトガル語） ・調査票に同封する返送用封筒にて郵送（日本語・英語）

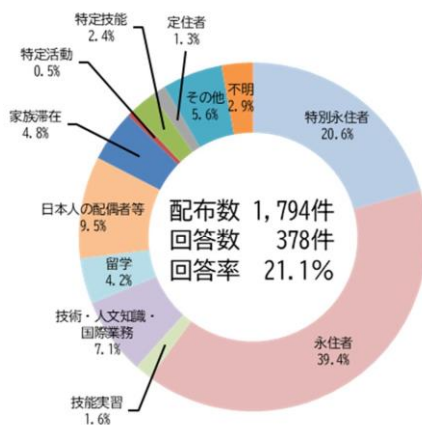
< 外国人人口 及び 外国人人口比の推移 >



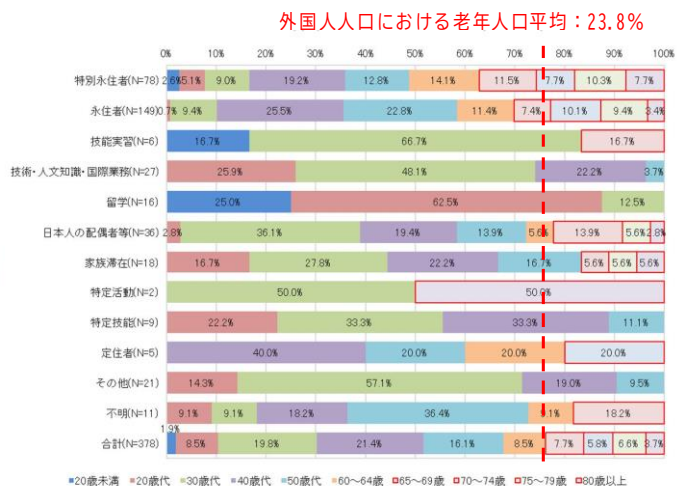
- ・幅広い国籍（39 か国）の方から回答を頂いており、特に「韓国・朝鮮」「中国」で約半数となっています。
- ・芦屋市では、外国人人口及び外国人人口比率も増加傾向にあり、使用言語や文化・習俗・考え方も多様化する中で、外国人施策もアップデートを図る必要があります。

○年代別・在留資格別回答状況

< 在留資格別 回答状況 >



< 在留資格別 年代 回答状況 >



- ・在留資格別に見ると、「永住者」が全体の約4割、「特別永住者」が全体の約2割を占めています。
- ・年代別に見ると、外国人人口の高齢化率は約2割となっていますが、一部在留資格（特別永住者・永住者等）では高齢化率が高い傾向が見られます。

■ 芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要

● 芦屋市在住外国人の日本語能力について

- ・「日本語能力に不安がある」と回答している方は回答者全体の約3割【129人÷(129人+249人)÷34.1%】を占めており、国籍・在留資格を問わず「読む」「書く」能力に不安があると回答した方が多くなっています。
- ・日本語能力の学び方では、大学・日本語学校などの専門機関で学んだ経験がある方ほど日本語能力に不安がなく、独学や地域の日本語教室などで学んだ方は日本語能力に不安がある傾向が見られます。
- 日本語能力に不安があり、かつ日本語教室で学びたい方に対し、ニーズの高い言語分野（「読み」「書き」）や国籍・地域（ヨーロッパ・東南アジア・中南米等）時間帯（平日 午前）に応じた日本語教室の開催・拡充が求められます。

< 国籍別 日本語能力に対する不安 >

	日本語能力に不安がある					不安はない
	聞く	話す	読む	書く	全体	
韓国・朝鮮	12.5%	62.5%	50.0%	75.0%	8.2%	91.8%
中国	50.0%	75.0%	56.3%	87.5%	18.6%	81.4%
北米	86.4%	36.4%	77.3%	90.9%	50.0%	50.0%
ヨーロッパ	29.6%	37.0%	81.5%	88.9%	62.8%	37.2%
オセアニア	50.0%	75.0%	75.0%	75.0%	44.4%	55.6%
東南アジア	48.0%	52.0%	92.0%	76.0%	52.1%	47.9%
中南米	12.2%	33.3%	88.9%	100.0%	64.3%	35.7%
西・南アジア、中近東	41.7%	41.7%	100.0%	75.0%	46.2%	53.8%
その他	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
不明	20.0%	20.0%	100.0%	100.0%	55.6%	44.4%
合計	86.4%	47.3%	80.6%	85.3%	34.1%	65.9%

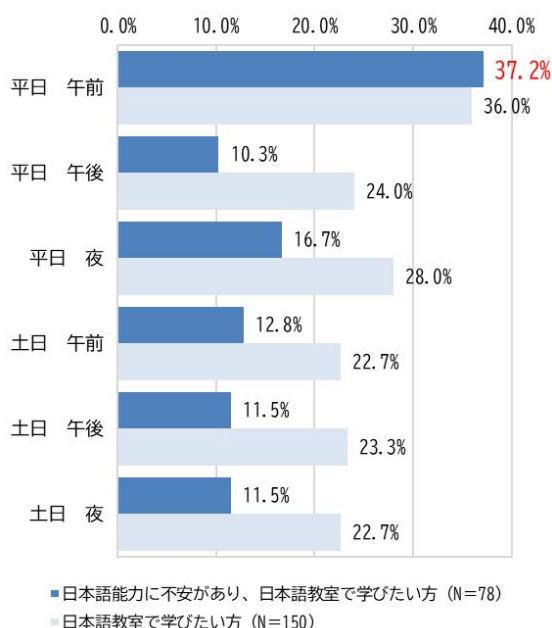
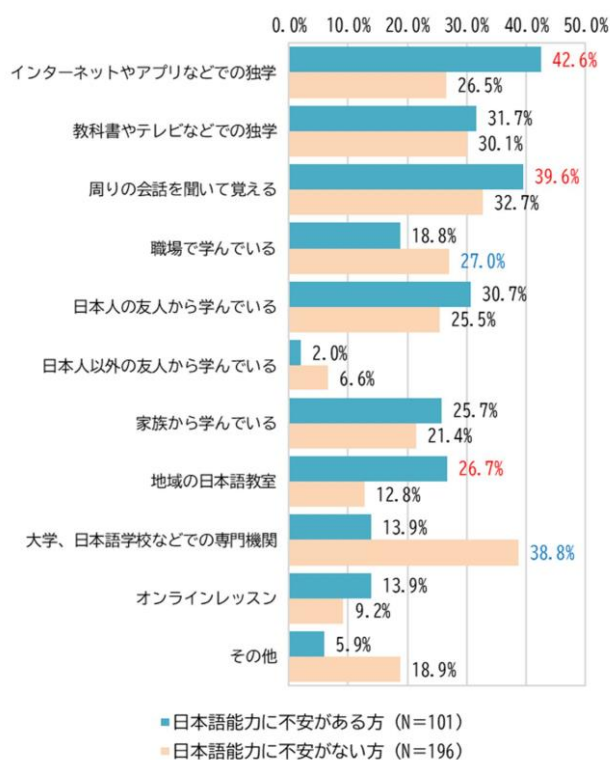
■ 「日本語能力に不安がある」と回答の多かった能力分野（聞く・話す・読む・書く）の回答構成比
 ■ 「日本語能力に不安がある」「不安はない」の回答構成比
 ※各項目の数字は回答数を示す

< 在留資格別 日本語能力に対する不安 >

	日本語能力に不安がある					不安はない
	聞く	話す	読む	書く	全体	
特別永住者	0.0%	25.0%	75.0%	75.0%	5.1%	94.9%
永住者	15.0%	30.0%	73.3%	88.3%	40.3%	59.7%
技能実習	0.0%	0.0%	100.0%	33.3%	50.0%	50.0%
技術・人文知識・国際業務	66.7%	75.0%	91.7%	91.7%	44.4%	55.6%
留学	20.0%	40.0%	80.0%	40.0%	31.3%	68.8%
日本人の配偶者等	53.3%	53.3%	93.3%	80.0%	41.7%	58.3%
家族滞在	91.7%	100.0%	83.3%	91.7%	66.7%	33.3%
特定活動	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
特定技能	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%	22.2%	77.8%
定住者	83.3%	83.3%	66.7%	100.0%	60.0%	40.0%
その他	88.9%	77.8%	88.9%	88.9%	42.9%	57.1%
不明	0.0%	83.3%	100.0%	100.0%	27.3%	72.7%
合計	86.4%	47.3%	80.6%	85.3%	34.1%	65.9%

「不安がある」と回答した方が多い項目	
国籍・地域	ヨーロッパ、東南アジア、中南米
在留資格	家族滞在

< 日本語能力に対する不安の有無別 日本語の学び方 > < 日本語能力に不安がある方の日本語教室 参加希望日 >



■ 芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要

● 芦屋市在住外国人の生活での困りごとについて

- ・「芦屋市で生活するために不安なこと」について、「学校」「保育所・幼稚園」「ごみの捨て方」などの教育・生活での不安が多くなっており、全体で約8割【292人÷（292人+86人÷77.2%）】が不安を感じています。
- ・困った時の相談先は、「家族」「友人・知人」が多くなっています。また、「芦屋市内に家族・友人がいない方」は「芦屋市内に家族・友人がいる方」と比べて「相談先がない」が大幅に増加しており、緊急時・災害時には誰にも相談できないことで、より危機的な状況になることが考えられます。
- 生活する上で不安なことを相談できる「多言語相談窓口」等の行政支援の拡充や、学校・幼稚園等の不安や地域生活上の不安についても気兼ねなく相談できるような「外国人市民の交流の場」の創出が求められています。

< 国籍別 芦屋市で生活するために不安なこと >

	生活に不安がある											不安はない
	ごみの捨て方	日本語の学習	保育所・幼稚園	学校	病院	災害	お金	仕事	近所付き合い	その他	全体	
韓国・朝鮮	33.9%	4.8%	30.6%	43.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	3.2%	63.9%	36.1%
中国	26.4%	2.8%	34.7%	55.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	83.7%	16.3%
北米	19.4%	5.6%	33.3%	41.7%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	81.8%	18.2%
ヨーロッパ	15.6%	15.6%	40.6%	40.6%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	74.4%	25.6%
オセアニア	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
東南アジア	14.9%	6.4%	36.2%	34.0%	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	97.9%	2.1%
中南米	0.0%	0.0%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	42.9%
西・南アジア、中近東	31.8%	18.2%	68.6%	13.6%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	4.5%	84.6%	15.4%
その他	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
不明	0.0%	0.0%	80.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	55.6%	44.4%
合計	22.6%	6.8%	38.4%	42.1%	2.1%	0.3%	0.3%	0.0%	2.4%	1.4%	77.2%	22.8%

< 在留資格別 芦屋市で生活するために不安なこと >

	生活に不安がある											不安はない
	ごみの捨て方	日本語の学習	保育所・幼稚園	学校	病院	災害	お金	仕事	近所付き合い	その他	全体	
特別永住者	34.0%	0.0%	29.8%	42.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	4.3%	60.3%	39.7%
永住者	18.3%	2.5%	35.8%	46.7%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	1.7%	80.5%	19.5%
技能実習	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
技術・人文知識・国際業務	38.5%	15.4%	26.9%	26.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	96.3%	3.7%
留学	7.1%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	87.5%	12.5%
日本人の配偶者等	13.8%	13.8%	34.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	80.6%	19.4%
家族滞在	33.3%	20.0%	26.7%	40.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%
特定活動	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
特定技能	14.3%	0.0%	85.7%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	77.8%	22.2%
定住者	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%
その他	13.3%	13.3%	53.3%	60.0%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
不明	50.0%	37.5%	50.0%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	72.7%	27.3%
合計	22.6%	6.8%	38.4%	42.1%	2.1%	0.3%	0.3%	0.0%	2.4%	1.4%	77.2%	22.8%

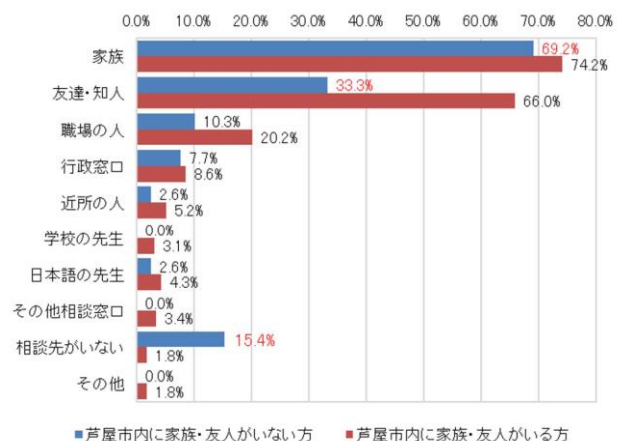
「生活に不安がある」と回答の多かった項目の回答構成比
「生活に不安がある」「不安はない」の回答構成比
※各項目の数字は回答数を示す

< 芦屋市で生活するために不安なこと（上位3位） > < 芦屋市内の家族・友人の有無別 困った時の相談先 >

項目	回答数	構成比
1. 学校	123件	42.1%
2. 保育所・幼稚園	112件	38.4%
3. ごみの捨て方	66件	22.6%

< 不安なことが多い国籍・地域、在留資格 >

分類	不安なことが多い分類	構成比
国籍・地域	東南アジア	97.9%
	西・南アジア、中近東	84.6%
	中国	83.7%
在留資格	技術・人文知識・国際業務	96.3%
	留学	87.5%
	家族滞在	83.3%



■ 芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要

● 芦屋市在住外国人の教育に関する悩み・不安について

- ・「教育に関する悩み・不安」について、すべての国籍・地域で「子育てや教育に必要なお金が高い」「塾や習い事に必要なお金が高い」などの教育資金に関する回答が多くなっており、全体で約4割以上となっています。
 - ・「東南アジア」「中南米」「西・南アジア、中近東」の方は、教育についての悩みや不安が多岐に渡っています。
 - ・「韓国・朝鮮」「オセアニア」「北米」では、他の国の方と比べて、教育に関する悩みや不安は少ないものの、「オセアニア」の方は保育や学校の慣習、進路について子どもと意見が合わないことに対する悩みや不安が多く、「北米」の方は子育てや教育の仕組み、仲間外れやいじめ、母語や母国の文化を勉強できないことなどに対する悩みや不安が見られます。
 - ・「中国」「ヨーロッパ」の方は、勉強を教えられない。授業内容が理解できないか心配、母語や母国の文化を勉強できない、保育や学校の慣習。受験や進学についての悩みや不安が多く見られます。
 - ・「中国」の方では、相談できる人や場所が分からない、子育てや教育の仕組みが分からないも比較的多くなっています。
- 教育に関する悩み・不安は国籍・地域ごとに違いがあり、**各国の文化や考え方に合わせた情報発信体制の整備や相談先の拡充、母語や母国の文化を学習・共有できる環境の確保等**の取り組みが求められています。

< 国籍別 教育に関する悩み・不安 >

設問	韓国・朝鮮	中国	北米	ヨーロッパ	オセアニア	東南アジア	中南米	西・南アジア、中近東	その他	不明	合計
回答者数	50	50	23	23	6	24	8	7	2	2	195
1 母子健康手帳をもらったが内容がわからない	14.0%	10.0%	4.3%	21.7%	0.0%	29.2%	12.5%	42.9%	0.0%	50.0%	15.4%
2 妊娠中の健康診査を受ける方法がわからない	4.0%	2.0%	0.0%	8.7%	0.0%	16.7%	12.5%	33.3%	0.0%	50.0%	6.7%
3 子どもを産むために病院に行くとき言葉が通じない	4.0%	6.0%	0.0%	4.3%	0.0%	25.0%	37.5%	16.7%	0.0%	50.0%	8.8%
4 子どもの健康診断や予防接種を受ける方法がわからない	8.2%	10.2%	4.3%	17.4%	0.0%	29.2%	0.0%	57.1%	0.0%	33.3%	13.4%
5 子どもについて相談できる人や場所がわからない	14.3%	22.0%	13.0%	9.1%	0.0%	37.5%	28.6%	42.9%	50.0%	50.0%	20.4%
6 日本の子育てや教育の仕組みがわからない	16.3%	30.0%	26.1%	9.1%	16.7%	78.3%	28.6%	42.9%	50.0%	50.0%	29.8%
7 働くために子どもを預けたいが、どうすればいいかわからない	14.3%	16.3%	8.7%	18.2%	16.7%	34.8%	42.9%	14.3%	50.0%	50.0%	18.9%
8 子育てや教育に必要なお金が高い	44.9%	45.1%	21.7%	39.1%	16.7%	58.3%	42.9%	50.0%	50.0%	50.0%	42.6%
9 幼稚園や保育所、学校に子どもを通わせるための手続きがわからない	4.2%	11.8%	13.0%	4.5%	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%	50.0%	14.7%
10 幼稚園や保育所、学校からの連絡の内容がわからない	6.0%	8.0%	13.0%	4.5%	16.7%	50.0%	14.3%	33.3%	0.0%	50.0%	14.6%
11 先生やほかの親と会話ができない	8.0%	19.6%	13.0%	18.2%	16.7%	37.5%	28.6%	28.6%	0.0%	50.0%	18.6%
12 日本語がわからないため、親として勉強を教えることができない	8.0%	26.0%	13.0%	36.4%	16.7%	62.5%	75.0%	55.6%	0.0%	50.0%	28.6%
13 塾や習い事に必要なお金が高い	58.3%	55.8%	21.7%	47.8%	40.0%	82.6%	57.1%	66.7%	50.0%	50.0%	54.8%
14 子どもが仲間外れになったり、いじめられたりする	12.5%	25.0%	26.1%	17.4%	0.0%	41.7%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%
15 子どもが悪いことをしないか心配だ	16.0%	13.7%	0.0%	4.3%	16.7%	33.3%	0.0%	12.5%	50.0%	50.0%	14.2%
16 子どもが授業の内容を理解できないか心配だ	14.3%	27.5%	8.7%	21.7%	16.7%	45.8%	50.0%	12.5%	50.0%	0.0%	23.5%
17 子どもが母語や母国の文化を勉強することができない	18.4%	40.0%	21.7%	39.1%	16.7%	54.2%	37.5%	25.0%	50.0%	0.0%	32.3%
18 日本の保育や学校の慣習に従うことを求められる	12.2%	23.5%	8.7%	26.1%	40.0%	54.2%	66.7%	50.0%	50.0%	50.0%	26.4%
19 受験や進学の方法がわからない	12.2%	31.4%	17.4%	22.7%	16.7%	66.7%	66.7%	25.0%	0.0%	50.0%	28.5%
20 進路について子どもと意見があわない	12.2%	11.8%	17.4%	13.6%	20.0%	41.7%	0.0%	30.0%	0.0%	50.0%	17.5%
21 子どもが日本語をあまりできないため、高校に入学するための試験に合格することが難しい	8.5%	13.7%	13.0%	13.0%	0.0%	41.7%	28.6%	12.5%	0.0%	50.0%	16.1%

太字：20%以上の項目

■ 芦屋市外国人市民意識調査 アンケート調査結果概要

● 芦屋市在住外国人の防災意識について

- ・取り組んでいる防災対策について、避難所の場所の認知や災害時の持ち出しかばんの準備、消火器の使い方などが多い一方で、「何もしていない」と回答した方が、回答者全体の約１５％を占めています。
- ・参加したい災害対策講座は、「災害が不安である」と回答した方は実際の避難経路や地域の連携の確認など、より実践的な防災訓練の実施を希望する傾向が見られます。
- 外国人市民は緊急時に十分なコミュニケーションが確保されないことが危惧されることから、**災害対策について平時より情報発信に取り組むとともに、より実践的な防災訓練の実施が求められます。**

< 国籍別 取り組んでいる災害対策 >

	何もしていない	避難所の場所を知っている	災害の時のために、食べ物・水・懐中電灯・薬など必要なものをかばんに入れてある	災害がおきたらどの道を通って逃げるか家族や友人と相談している	家具が倒れてこないように固定している	消火器の使いかた、ある場所を知っている
韓国・朝鮮	14.1%	69.6%	33.7%	21.7%	21.7%	22.8%
中国	22.4%	65.9%	50.6%	23.5%	22.4%	29.2%
北米	17.1%	65.9%	46.3%	43.9%	41.3%	46.3%
ヨーロッパ	11.6%	55.8%	62.8%	44.2%	41.9%	46.5%
オセアニア	11.1%	33.3%	88.9%	22.2%	11.1%	44.4%
東南アジア	14.6%	54.2%	52.1%	27.1%	16.4%	31.3%
中南米	28.6%	35.7%	57.1%	21.4%	14.3%	21.4%
西・南アジア、中近東	12.0%	52.0%	52.0%	28.0%	28.0%	36.0%
その他	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	37.5%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
合計	16.9%	60.5%	48.2%	28.3%	26.7%	31.3%

< 在留資格別 取り組んでいる災害対策 >

	何もしていない	避難所の場所を知っている	災害の時のために、食べ物・水・懐中電灯・薬など必要なものをかばんに入れてある	災害がおきたらどの道を通って逃げるか家族や友人と相談している	家具が倒れてこないように固定している	消火器の使いかた、ある場所を知っている
特別永住者	11.1%	70.8%	36.1%	26.4%	18.1%	23.6%
永住者	19.2%	57.5%	47.9%	25.3%	28.1%	31.5%
技能実習	16.7%	50.0%	66.7%	33.3%	33.3%	50.0%
技術・人文知識・国際業務	22.2%	63.0%	48.1%	33.3%	40.7%	40.7%
留学	0.0%	56.3%	68.8%	37.5%	31.3%	37.5%
日本人の配偶者等	17.6%	55.9%	55.9%	44.1%	29.4%	38.2%
家族滞在	16.7%	66.7%	44.4%	33.3%	27.8%	27.8%
特定活動	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特定技能	11.1%	55.6%	66.7%	22.2%	11.1%	55.6%
定住者	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
その他	9.5%	66.7%	66.7%	28.6%	33.3%	33.3%
不明	36.4%	54.5%	36.4%	9.1%	27.3%	9.1%
合計	16.9%	60.5%	48.2%	28.3%	26.7%	31.3%

回答の多かった項目の回答構成比
※各項目の数字は回答数を示す

< 「何もしていない」が多い国籍・地域、在留資格 > < 災害に対する不安の有無別 参加したい災害対策講座 >

分類	「何もしていない」が多い分類	構成比
国籍・地域	中南米	28.6%
	中国	22.4%
	北米	17.1%
在留資格	技術・人文知識・国際業務	22.2%
	永住者	19.2%
	日本人の配偶者等	17.6%

